

第 15 回 中山間地域振興特別委員会

令和元年 5 月 28 日(火)
10 時 ～ 時 分
全 員 協 議 会 室

【出席者】 飛野委員長 布施副委員長 三浦委員 西川委員 川上委員 柳楽委員
串崎委員 上野委員 岡本委員 芦谷委員 永見委員

【議長団】

【執行部】 防災安全課長 政策企画課長 まちづくり推進課長 商工労働課
農林振興課長 維持管理課長 金城支所防災自治課長
金城支所産業建設課長 旭支所防災自治課長 旭支所産業建設課長
弥栄支所防災自治課長 弥栄支所産業建設課長 三隅支所防災自治課長
三隅支所産業建設課長 政策企画課企画係専門企画員

【事務局】 古森局長 下間係長

議 題

1. 「交通・通信・情報の確保対策」について
(担当課との意見交換)

2. 行政視察について

3. その他

○次回開催 月 日 () 時 分

中山間地域の抱える諸課題について 2「交通・通信・情報の確保対策」についての意見交換資料

(1) 買い物・通院手段の確保（だんだん車が運転できなくなる）

	資料要望の内容	担当課	回答	備考
①	第2次浜田市地域公共交通再編計画の主な改正点および公共交通の今後の方向性と着手順位	まちづくり推進課	第2次再編計画の重点項目 ・ 地域の特性に応じた公共交通体系の構築 ・ 高齢者に配慮したドア・トゥ・ドアの充実 ・ 公共交通資源の適正配分 ・ I C Tの導入検討、次世代モビリティサービス実験受入れ 別添資料あり 第2次浜田市地域公共交通再編計画 P 36、P 63	
②	アンケートが為されているのであれば要望の内容や割合	まちづくり推進課	別添資料あり 第2次浜田市地域公共交通再編計画 P 26	
③	デマンドタクシー、ひゃこるバスなどの運行実績	まちづくり推進課	別添資料あり	
④	買い物が難しい人の実態（家族構成→シングル・高齢夫婦・高齢親子）	まちづくり推進課	実態の把握はできていません	
⑤	通院の手段の状況（タクシー割引券の活用状況と地域の通院方法）	まちづくり推進課	別添資料あり 第2次浜田市地域公共交通再編計画 P 23～25	
⑥	地域ごとの免許返納者数の推移	まちづくり推進課	別添資料あり	

中山間地域の抱える諸課題について 2「交通・通信・情報の確保対策」についての意見交換資料

(1) 買い物・通院手段の確保（だんだん車が運転できなくなる）

	資料要望の内容	担当課	回答	備考
⑦	交通の確保（事業予算とその事業評価）	まちづくり推進課	予算（別添資料あり） 地域公共交通再編事業(敬老福祉乗車券交付事業)については、平成28年度からの本格実施以来、市民の方からも好評価を頂いており、当初3カ年事業として実施したがさらに3カ年、事業期間を延長した。今後も浜田市の地域公共交通の重要施策の一つとして活用していきたい。 生活路線バス運行事業、新交通システム運営事業(予約型乗合タクシー運行事業)については、利用者低迷路線の整理・統合が今後の課題と考える。 交通関連予算の約半分を占める路線バス利用促進事業(石見交通への赤字補てん)については、年々増加傾向にあり、今後も市財政への圧迫が懸念されるため、今一度、浜田市の公共交通としての民間路線バスの役割を再考する必要があると考える。	
⑧	中山間地域に於ける後継者不足、売上不振で廃業したお店の数と業種。（近い将来の不安視する数）	商工労働課	【浜田商工会議所エリア】 ◎後継者不在、売上不振による廃業15件 業種内訳:小売4、製造3、飲食5、卸売1、建設1、サービス1 【石央商工会エリア】 ◎後継者不在、売上不振による廃業35件 業種内訳:卸売・小売14、製造7、宿泊・飲食5、建設5、運輸・郵便2、サービス2	
⑨	移動販売車の実績と収支バランス、地域カバーエリアはどこまでしているのか	商工労働課	市が把握している移動販売事業者は3社あります。収支については、厳しい状況と伺っています。 地域カバーエリアについては、金城町と旭町は、全体がカバーされており、弥栄町は杵束地区、三隅町は白砂地区と黒沢地区がカバーされていません。	
⑩	市内スーパー等の配達サービスの実態と買物代行業等の業者や便利屋の数	商工労働課	市内スーパー等で配達サービスを実施している店舗は、サンプラム、まんてん、三角屋、服部タイヨー、Aコープみすみ店、Aコープあさひ店の6店であります。この他にも、コンビニの一部の店舗で配達サービスを実施しております。	

中山間地域の抱える諸課題について 2「交通・通信・情報の確保対策」についての意見交換資料

(1) 買い物・通院手段の確保（だんだん車が運転できなくなる）

	資料要望の内容	担当課	回答	備考
⑪	現自治会輸送の実績と自治会輸送要望地区の状況	まちづくり推進課	実績：別添資料あり 要望：自治会からの具体的な要望はありません。 （ボランティア運送への要望あり）	
⑫	コミュニティワゴン運送事業（井野地区、羽原地区、大麻地区）の現在までの成果と今後の他地域への展開についての見解。	まちづくり推進課	自治会等が運行を担うことで、地域の実情に応じた交通手段の確保や戸別輸送（ドア・トゥ・ドア）型の運行、実費や低廉な運賃での運行につながっており、利用者に喜ばれていると認識している。 一方で、自治会役員の高齢化＝運転手の高齢化の課題もあり、運転手の持続的な確保や運行の安全性に配慮しながら地域の要望に応じて展開していく必要があると考えている。	
⑬	ドア・トゥ・ドアで移動できるタクシーを利用した新たな交通手段について、タクシー利用料金を助成するだけなら敬老乗車券の拡充で対応できると考えるが、『新たな交通手段』としてどのような施策を検討しているのか。	まちづくり推進課	敬老福祉乗車券は、使用目的や行先、時間帯や利用公共交通機関を限定していない。また、購入上限の差はあるものの、居住地も限定していない。 タクシーを活用した新たな交通手段では、対象者や対象地区、用途をある程度限定し、バス利用が困難な高齢者等を対象にタクシー助成を行う施策をイメージしている。	

2 計画の基本理念・基本方針

＜基本理念＞

第2次浜田市総合振興計画に掲げられている将来像「住みたい 住んでよかった 魅力いっぱい 元気な浜田」、浜田市都市計画マスタープランに掲げられている将来像「自然を活かし 人々の交流と協働により活力あふれる中核都市」や地域公共交通が果たすべき役割等を踏まえ、本計画の基本理念を次のとおり定めます。

未来の市民生活を支える公共交通

市民が住んでよかったと思える魅力と活力にあふれるまちづくりに向けて、これを支える持続可能な公共交通を目指します。

＜基本方針＞

地域公共交通の課題を踏まえるとともに、上位計画・関連計画において公共交通に求められている機能や役割を踏まえ、本計画の基本方針を次のとおり定めます。

基本方針1：住民の生活を支える地域公共交通

- ◆地域の特性に対応し、住民のニーズに合った交通手段を確保することを目指します。
- ◆高齢者等の利用に配慮した、ドア・トゥ・ドア型の移動手段について充実を図ります。
- ◆一度の外出で効率良く、通院や買物、その他の用事を済ませることができるよう、中心市街地の主要施設（病院、商業、教育、公共施設）を結ぶバス路線を見直し、中心市街地における移動性の向上を図ります。
- ◆需要に見合った運行と公共交通資源の適正配分を基本に、効率的で持続可能な交通体系の構築を目指します。

基本方針2：人にやさしい公共交通

- ◆高齢者、特に中山間地域の住民生活を支えるため、敬老乗車券制度の充実を図ります。
- ◆通学などで公共交通を利用する頻度が高い高校生に配慮した施策を検討します。
- ◆誰もがわかりやすい公共交通情報の提供や、バス停の待合環境の整備など、利用しやすい交通環境を整備します。

基本方針3：未来につなげる公共交通

- ◆本市に適したICTを利用したシステムの導入を検討するとともに、国や企業が進める地方における次世代モビリティサービスの実証実験を受入れるなどして、新たな地域公共交通サービスに活かせるよう検討します。
- ◆訪れる人にもやさしい公共交通体系を検討します。

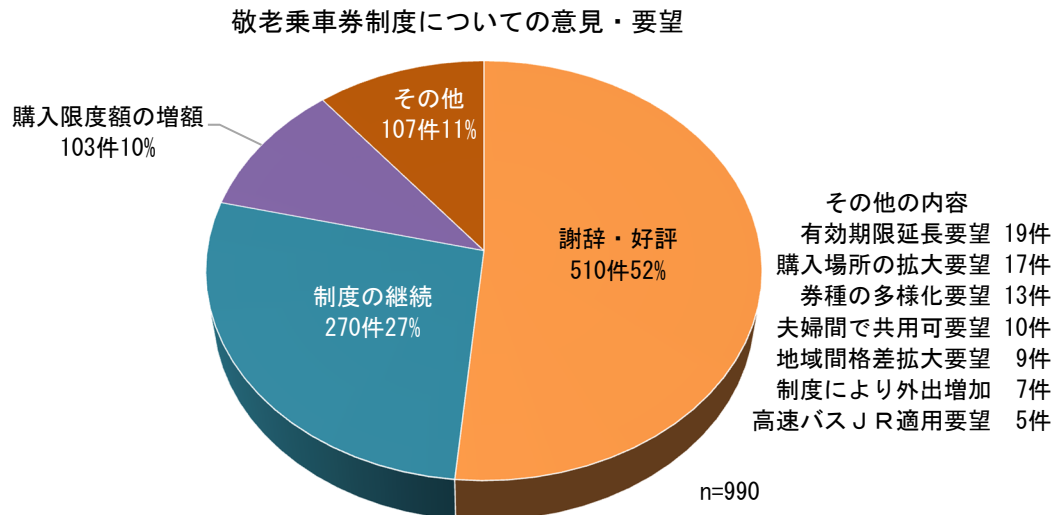
◆事業実施スケジュール

施 策	事業	実施年度					
		2019	2020	2021	2022	2023	2024
1 公共交通空白地域等の縮減	地域に適した移動手段の確保						
	市乗合タクシー運行区域の拡大						
	ドア・トゥ・ドアで移動できるタクシーを利用した新たな交通手段						
2 中心市街地における移動性の向上	循環系3路線の見直し						
3 公共交通資源の適正配分	運行見直し基準の設定						
	地域交通資源の一体的運用						
4 利用しやすい制度への再構築	敬老乗車券制度の見直し						
	公共交通を利用した通学への支援						
5 利用しやすい公共交通環境整備	わかりやすい公共交通情報の提供						
	バス利用環境の充実						
6 次世代モビリティサービスの導入	ICTを利用したシステムの導入検討・次世代サービス実証試験の受入れ						
7 公共交通の観光活用	訪れる人にもやさしい公共交通体系の検討						

	検討調整
	事業実施
	検討後、実施可能なものから随時実施

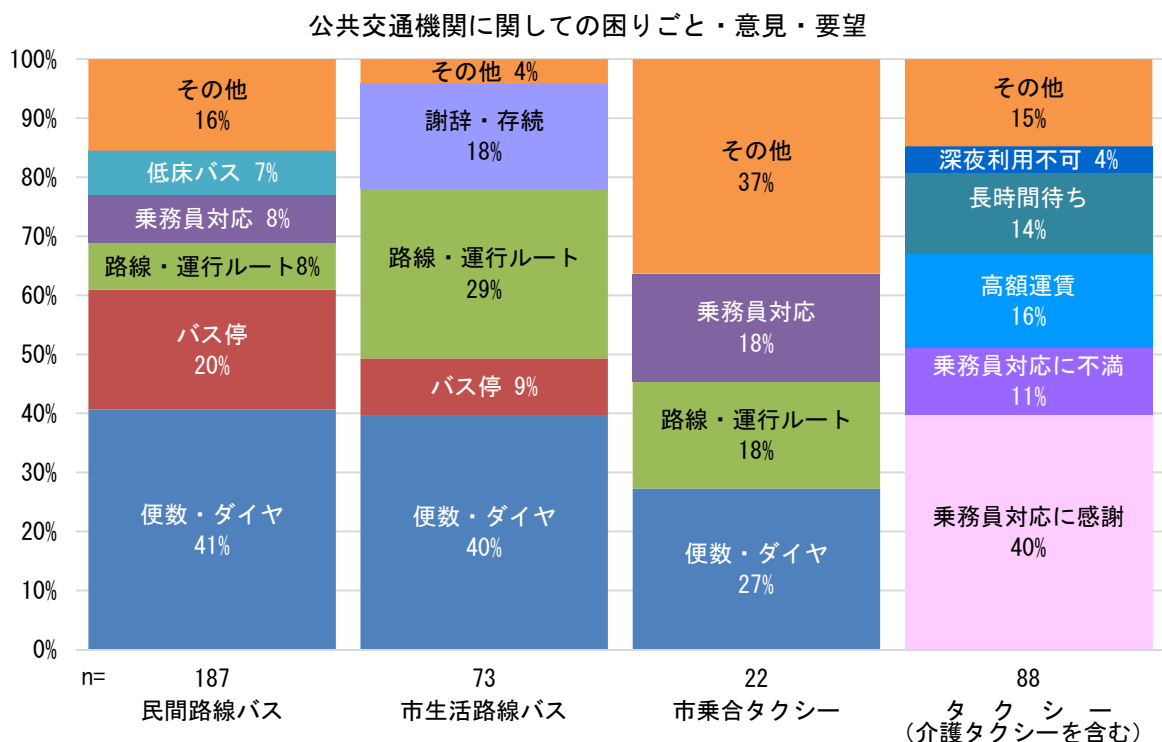
⑤敬老乗車券制度についての意見・要望

- 「助かる」「有難い」「とても良い制度」など制度への謝辞・好評が 52%を占め、次いで制度の継続要望 27%、購入限度額の増額要望 10%となっています。
- その他要望としては、有効期限の延長、購入できる場所の拡大、券種の多様化、夫婦間で共用可などが挙げられます。



⑥公共交通機関についての困りごと・意見・要望

- 民間路線バス、市生活路線バス、市乗合タクシーとも便数・ダイヤに関する要望・困りごとが最も多く、次いで、民間路線バスでは、バス停環境整備やバス停設置等の要望、市生活路線バスや市乗合タクシーでは、路線延長（対象地域拡大）、路線新設等の要望が多くみられます。
- タクシーでは、乗務員の対応に対する感謝が最も多く、次いで、困りごととして高額な運賃、タクシーが出払ってなかなか来てくれない、などがみられます。



平成29年度浜田市生活路線バス等の利用実績について

1 浜田市生活路線バスの利用実績

路線名	系統名等	利用者数 [A]			運行便数[B] (上段:平成28年度実績)	1便当たり 利用者数 [A/B]
		平成28年度	平成29年度	増減 〔前年度比〕		
金城	雲城美又線(SB)	78人	71人	▲ 7人 〔91.0%〕	(245便) 245便	(0.3人) 0.3人
	雲城久佐線(SB)	201人	202人	1人 〔100.5%〕	(245便) 245便	(0.8人) 0.8人
	雲城久佐美又線	971人	844人	▲ 127人 〔86.9%〕	(1,398便) 1,430便	(0.7人) 0.6人
	雲城今福線 (回送活用便)	5人	14人	9人 〔280.0%〕	(310便) 310便	(0.0人) 0.0人
	小 計	1,255人	1,131人	▲ 124人 〔90.1%〕	(2,198便) 2,230便	(0.6人) 0.5人
旭	木田線(SB)	575人	578人	3人 〔100.5%〕	(2,535便) 2,629便	(0.2人) 0.2人
	和田線(SB)	211人	228人	17人 〔108.1%〕	(1,524便) 1,594便	(0.1人) 0.1人
	戸川線	1,831人	2,273人	442人 〔124.1%〕	(1,388便) 1,438便	(1.3人) 1.6人
	瑞穂線(SB)	1,140人	978人	▲ 162人 〔85.8%〕	(2,474便) 2,557便	(0.5人) 0.4人
	小 計	3,757人	4,057人	300人 〔108.0%〕	(7,921便) 8,218便	(0.5人) 0.5人
弥栄 野原	小 計	3,760人	3,005人	▲ 755人 〔79.9%〕	(2,479便) 2,472便	(1.5人) 1.2人
三隅	循環線	10,470人	9,191人	▲ 1,279人 〔87.8%〕	(3,801便) 3,789便	(2.8人) 2.4人
	井野室谷線	620人	708人	88人 〔114.2%〕	(161便) 157便	(3.9人) 4.5人
	諸谷平原線	851人	724人	▲ 127人 〔85.1%〕	(153便) 141便	(5.6人) 5.1人
	平原森溝線	220人	248人	28人 〔112.7%〕	(92便) 97便	(2.4人) 2.6人
	白砂西河内線	735人	728人	▲ 7人 〔99.0%〕	(202便) 193便	(3.6人) 3.8人
	井野三隅線	1,925人	1,887人	▲ 38人 〔98.0%〕	(926便) 921便	(2.1人) 2.0人
	周布地今明線	1,566人	1,740人	174人 〔111.1%〕	(376便) 388便	(4.2人) 4.5人
	石浦小原線	834人	748人	▲ 86人 〔89.7%〕	(210便) 197便	(4.0人) 3.8人
	黒沢矢原線	4,418人	3,852人	▲ 566人 〔87.2%〕	(1,887便) 1,872便	(2.3人) 2.1人
	黒沢小原線	2,070人	2,056人	▲ 14人 〔99.3%〕	(311便) 305便	(6.7人) 6.7人
	矢原岡見線	550人	487人	▲ 63人 〔88.5%〕	(104便) 103便	(5.3人) 4.7人
	岡見海老谷線	435人	419人	▲ 16人 〔96.3%〕	(153便) 147便	(2.8人) 2.9人
	小 計	24,694人	22,788人	▲ 1,906人 〔92.3%〕	(8,376便) 8,310便	(2.9人) 2.7人
合 計		33,466人	30,981人	▲ 2,485人 〔92.6%〕	(20,974便) 21,230便	(1.6人) 1.5人

(注) 金城路線及び旭路線の「(SB)」表示のある系統については、スクールバスの一般混乗便を運行しているが、集計は、一般利用者のみの数値

2 浜田市予約型乗合タクシーの利用実績

自治区	地区名等	利用者数 [A]			運行便数 [B]	運休便数 [C]	1便当たり 利用者数 [A/B+C]
		平成28年度	平成29年度	増減 〔前年度比〕			
		(上段:平成28年度実績)					
浜田	三階長見線	967人	910人	▲ 57人 [94.1%]	(372便) 386便	(208便) 190便	(1.7人) 1.6人
	美川線	1,244人	1,345人	101人 [108.1%]	(422便) 393便	(158便) 183便	(2.1人) 2.3人
	小 計	2,211人	2,255人	44人 [102.0%]	(794便) 779便	(366便) 373便	(1.9人) 2.0人
金城	小国・波佐線	831人	826人	▲ 5人 [99.4%]	(230便) 222便	(64便) 66便	(2.8人) 2.9人
	美又線	79人	146人	67人 [184.8%]	(52便) 73便	(46便) 31便	(0.8人) 1.4人
	久佐線	233人	166人	▲ 67人 [71.2%]	(105便) 91便	(91便) 121便	(1.2人) 0.8人
	小 計	1,143人	1,138人	▲ 5人 [99.6%]	(387便) 386便	(201便) 218便	(1.9人) 1.9人
旭	山ノ内線	93人	116人	23人 [124.7%]	(44便) 70便	(56便) 26便	(0.9人) 1.2人
	坂本・都川線	54人	179人	125人 [331.5%]	(35便) 75便	(165便) 125便	(0.3人) 0.9人
	市木・来尾線	234人	231人	▲ 3人 [98.7%]	(46便) 47便	(154便) 153便	(1.2人) 1.2人
	小 計	381人	526人	145人 [138.1%]	(125便) 192便	(375便) 304便	(0.8人) 1.1人
弥栄	山賀線	145人	201人	56人 [138.6%]	(74便) 77便	(26便) 17便	(1.5人) 2.1人
	的野線	60人	74人	14人 [123.3%]	(34便) 37便	(66便) 57便	(0.6人) 0.8人
	青尾線	114人	192人	78人 [168.4%]	(50便) 84便	(52便) 18便	(1.1人) 1.9人
	程原線	67人	43人	▲ 24人 [64.2%]	(46便) 31便	(54便) 69便	(0.7人) 0.4人
	畑線	127人	160人	33人 [126.0%]	(58便) 70便	(42便) 30便	(1.3人) 1.6人
	横谷線	156人	153人	▲ 3人 [98.1%]	(64便) 73便	(38便) 27便	(1.5人) 1.5人
	上田野原線	211人	170人	▲ 41人 [80.6%]	(90便) 74便	(14便) 26便	(2.0人) 1.7人
	安城・杵束線 (眼科便・おでかけ便)	88人	48人	▲ 40人 [54.5%]	(42便) 28便	(30便) 44便	(1.2人) 0.7人
	小 計	968人	1,041人	73人 [107.5%]	(458便) 474便	(322便) 288便	(1.2人) 1.4人
合 計		4,703人	4,960人	257人 [105.5%]	(1,764便) 1,831便	(1,264便) 1,183便	(1.6人) 1.6人

平成30年度浜田市生活路線バス等の利用実績について

1 浜田市生活路線バスの利用実績

路線名	系統名等	利用者数 [A]			運行便数[B] (上段:平成29年度実績)	1便当たり 利用者数 [A/B]
		平成29年度	平成30年度	増減 〔前年度比〕		
金城	雲城美又線 (SB)	71人	45人	▲ 26人 〔63.4%〕	(245便) 244便	(0.3人) 0.2人
	雲城久佐線 (SB)	202人	122人	▲ 80人 〔60.4%〕	(245便) 244便	(0.8人) 0.5人
	雲城久佐美又線	844人	394人	▲ 450人 〔46.7%〕	(1,430便) 789便	(0.6人) 0.5人
	雲城今福線 (回送活用便)	14人	26人	12人 〔185.7%〕	(310便) 149便	(0.0人) 0.2人
	小 計	1,131人	587人	▲ 544人 〔51.9%〕	(2,230便) 1,426便	(0.5人) 0.4人
旭	木田線 (SB)	578人	375人	▲ 203人 〔64.9%〕	(2,629便) 1,966便	(0.2人) 0.2人
	戸川線 (SB)	2,501人	2,573人	72人 〔102.9%〕	(3,032便) 2,502便	(0.8人) 1.0人
	瑞穂線 (SB)	978人	994人	16人 〔101.6%〕	(2,557便) 2,186便	(0.4人) 0.5人
	小 計	4,057人	3,942人	▲ 115人 〔97.2%〕	(8,218便) 6,654便	(0.5人) 0.6人
弥栄 野原	小 計	3,005人	2,722人	▲ 283人 〔90.6%〕	(2,472便) 2,464便	(1.2人) 1.1人
三隅	循環線	9,191人	8,340人	▲ 851人 〔90.7%〕	(3,801便) 3,775便	(2.4人) 2.2人
	井野室谷線	708人	562人	▲ 146人 〔79.4%〕	(157便) 161便	(4.5人) 3.5人
	諸谷平原線	724人	680人	▲ 44人 〔93.9%〕	(141便) 150便	(5.1人) 4.5人
	平原森溝線	248人	182人	▲ 66人 〔73.4%〕	(97便) 86便	(2.6人) 2.1人
	白砂西河内線	728人	694人	▲ 34人 〔95.3%〕	(193便) 196便	(3.8人) 3.5人
	井野三隅線	1,887人	1,431人	▲ 456人 〔75.8%〕	(921便) 924便	(2.0人) 1.5人
	周布地今明線	1,740人	1,518人	▲ 222人 〔87.2%〕	(388便) 368便	(4.5人) 4.1人
	石浦小原線	748人	820人	72人 〔109.6%〕	(197便) 210便	(3.8人) 3.9人
	黒沢矢原線	3,852人	3,218人	▲ 634人 〔83.5%〕	(1,872便) 1,872便	(2.1人) 1.7人
	黒沢小原線	2,056人	2,265人	209人 〔110.2%〕	(305便) 312便	(6.7人) 7.3人
	矢原岡見線	487人	436人	▲ 51人 〔89.5%〕	(103便) 104便	(4.7人) 4.2人
	岡見海老谷線	419人	341人	▲ 78人 〔81.4%〕	(147便) 150便	(2.9人) 2.3人
	小 計	22,788人	20,487人	▲ 2,301人 〔89.9%〕	(8,322便) 8,308便	(2.7人) 2.5人
合 計		30,981人	27,738人	▲ 3,243人 〔89.5%〕	(21,242便) 18,852便	(1.5人) 1.5人

(注) 金城路線及び旭路線の「(SB)」表示のある系統については、スクールバスの一般混乗便を運行しているが、集計は、一般利用者のみの数値

※平成29年度からの変更点

【金城路線】 運行日の削減

【旭路線】 和田線の廃止、運行日の削減

【弥栄野原路線】 バス停の新設（野原三町内）、「坂の上」バス停廃止便の導入

2 浜田市予約型乗合タクシーの利用実績

自治区	地区名等	利用者数 [A]			計画便数 [B]	運行便数 [C]	稼働率 [C/B]	1便当たり 利用者数 [A/B]
		平成29年度	平成30年度	増減 〔前年度比〕				
		(上段:平成29年度実績)						
浜田	三階長見線	910人	640人	▲ 270人 〔70.3%〕	(576便) 576便	(386便) 308便	(67.0%) (53.5%)	(1.6人) 1.1人
	美川線	1,345人	1, 134人	▲ 211人 〔84.3%〕	(576便) 576便	(393便) 390便	(68.2%) (67.7%)	(2.3人) 2.0人
	小 計	2,255人	1, 774人	▲ 481人 〔78.7%〕	(1,152便) 1,152便	(779便) 698便	(67.6%) (60.6%)	(2.0人) 1.5人
金城	小国・波佐線	826人	789人	▲ 37人 〔95.5%〕	(288便) 288便	(222便) 257便	(77.1%) (89.2%)	(2.9人) 2.7人
	美又線	146人	53人	▲ 93人 〔36.3%〕	(104便) 98便	(73便) 43便	(70.2%) (43.9%)	(1.4人) 0.5人
	久佐線	166人	184人	18 〔110.8%〕	(212便) 197便	(91便) 98便	(42.9%) (49.7%)	(0.8人) 0.9人
	小 計	1,138人	1, 026人	▲ 112人 〔90.2%〕	(604便) 583便	(386便) 398便	(63.9%) (68.3%)	(1.9人) 1.8人
旭	木田・山ノ内線	116人	182人	66人 〔156.9%〕	(96便) 138便	(70便) 80便	(72.9%) (58.0%)	(1.2人) 1.3人
	和田線	-	98人	皆増	- 136便	- 64便	- (47.1%)	- 1.5人
	坂本・都川線	179人	166人	▲ 13人 〔92.7%〕	(200便) 150便	(75便) 68便	(37.5%) (45.3%)	(0.9人) 1.1人
	市木・来尾線	231人	243人	12人 〔105.2%〕	(200便) 106便	(47便) 50便	(23.5%) (47.2%)	(1.2人) 2.3人
	小 計	526人	689人	163人 〔131.0%〕	(496便) 530便	(192便) 262便	(38.7%) (49.4%)	(1.1人) 1.3人
弥栄	横谷・程原線	196人	395人	199人 〔201.5%〕	(200便) 86便	(104便) 84便	(52.0%) (97.7%)	(1.0人) 4.6人
	山賀・畑線	553人	401人	▲ 152人 〔72.5%〕	(296便) 102便	(231便) 100便	- (98.0%)	(1.9人) 3.9人
	田野原・的野線	244人	203人	▲ 41人 〔83.2%〕	(194便) 96便	(111便) 74便	(57.2%) (77.1%)	(1.3人) 2.1人
	安城・杵束線 (眼科便)	48人	50人	2人 〔104.2%〕	(72便) 23便	(28便) 18便	(38.9%) (78.3%)	(0.7人) 2.2人
	小 計	1,041人	1, 049人	8人 〔100.8%〕	(762便) 307便	(474便) 276便	(62.2%) (89.9%)	(1.4人) 3.4人
合 計		4,960人	4, 538人	▲ 422人 〔91.5%〕	(3,014便) 2,572便	(1,831便) 1,634便	(60.7%) (63.5%)	(1.6人) 1.8人

※平成29年度からの変更点

【浜田自治区】 三階長見線の終点を浜田医療センターから殿町まで延長

【旭自治区】 山ノ内線の拡大(木田エリアを追加)、和田線を新規運行、坂本・都川線、市木・来尾線の運行便数を削減

【弥栄自治区】 7線(山賀線・的野線・青尾線・程原線・畑線・横谷線・上田野原線)を3線(横谷程原線・山賀畑線・田野原的野線)に見直し。安城・杵束線のおでかけ便を廃止

第4章 公共交通利用動向

1 敬老乗車券購入者アンケート

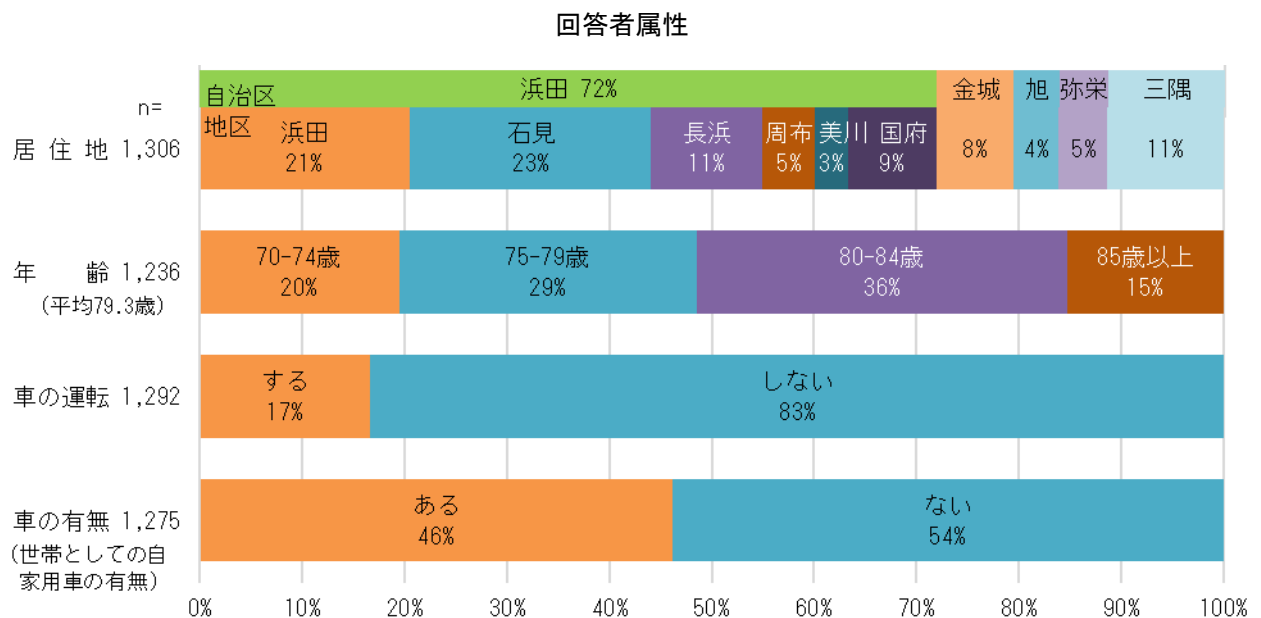
(1) 調査概要

調 査 対 象	敬老乗車券購入者を対象に、2,000 人を抽出
実 施 期 間	平成 30 年 10 月
配 布 ・ 回 収	郵送配布・郵送回収
調 査 内 容	○回答者属性 ○公共交通と利用目的地 ○公共交通利用頻度と運賃 ○敬老乗車券利用公共交通と利用額 ○敬老乗車券制度に関する意見・要望 ○利用している公共交通に関する意見・要望
回 収 率	65.3%（有効回答 1,306 件／配布 2,000 件）

(2) 調査結果

①回答者属性

- 80－84 歳が 36%と最も多く、次いで 75－79 歳が 29%を占めています。また、購入者のうち 49%が 70 歳代、51%が 80 歳以上となっています。
- 車を運転している人が 17%を占め、世帯として自家用車がある人が 46%を占めています。



②利用交通機関別主要目的地

- 民間路線バス利用時の主要目的地としては、浜田自治区の各地区及び各自治区とも中心市街地の医療機関、商業施設が上位を占めています。
- タクシー利用時の主要目的地としては、浜田自治区の各地区及び金城自治区は、民間路線バスと同様の傾向にありますが、旭、弥栄、三隅自治区では、各自治区内の医療機関、商業施設が上位を占めています。

民間路線バス利用時の主要目的地（上位 5）

	浜田地区 (n=163)	石見地区 (n=224)	長浜地区 (n=143)	周布地区 (n=69)	美川地区 (n=31)
1	医療センター 23%	医療センター 15%	ゆめタウン 16%	医療センター 22%	医療センター 13%
2	浜田駅 18%	ゆめタウン 14%	医療センター 14%	ゆめタウン 14%	沖田医院 13%
3	ゆめタウン 9%	沖田医院 10%	浜田駅 11%	浜田駅 12%	浜田駅 10%
4	沖田医院 6%	浜田駅 7%	沖田医院 6%	浜田市役所 4%	ゆめタウン 10%
5	総合福祉センター 3%	シティパルク 5%	おさだ眼科 3%	中村胃腸科内科 4%	中村胃腸科内科 10%
5					彌重内科眼科 10%
	国府地区 (n=118)	金城自治区 (n=71)	旭自治区 (n=29)	弥栄自治区 (n=29)	三隅自治区 (n=71)
1	医療センター 18%	おさだ眼科 18%	医療センター 52%	医療センター 24%	医療センター 18%
2	浜田駅 13%	金城沖田内科 14%	おさだ眼科 10%	浜田駅 17%	益田赤十字病院 14%
3	ゆめタウン 8%	医療センター 13%	ゆめタウン 7%	ゆめタウン 10%	もりわき眼科 11%
4	沖田医院 8%	ゆめタウン 11%	あさひ診療所 7%	おさだ眼科 10%	浜田駅 7%
5	シティパルク 4%	浜田駅 4%		中村整形外科 10%	イオン益田店 6%
5	浜田市役所 4%				

市生活路線バス利用時の主要目的地（上位 5）

	弥栄野原線 (n=28)	金城自治区 (n=12)	旭自治区 (n=25)	三隅自治区 (n=148)
1	浜田医療センター 19%	金城沖田医院 33%	上田医院（邑南町） 20%	中村医院（三隅町） 20%
2	シティパルク 9%	波佐診療所 17%	あさひ診療所 16%	寺井医院 18%
3	沖田医院 9%	浜田市金城支所 17%	A コープあさひ 16%	A コープみすみ 14%
4	笠田医院 9%	キヌヤ金城店 17%	浜田市旭支所 12%	サンプラム 11%
5	島根県立大学 9%		JA しまね旭支店 8%	野上医院 7%
5	おさだ眼科 9%		大山歯科医院 8%	

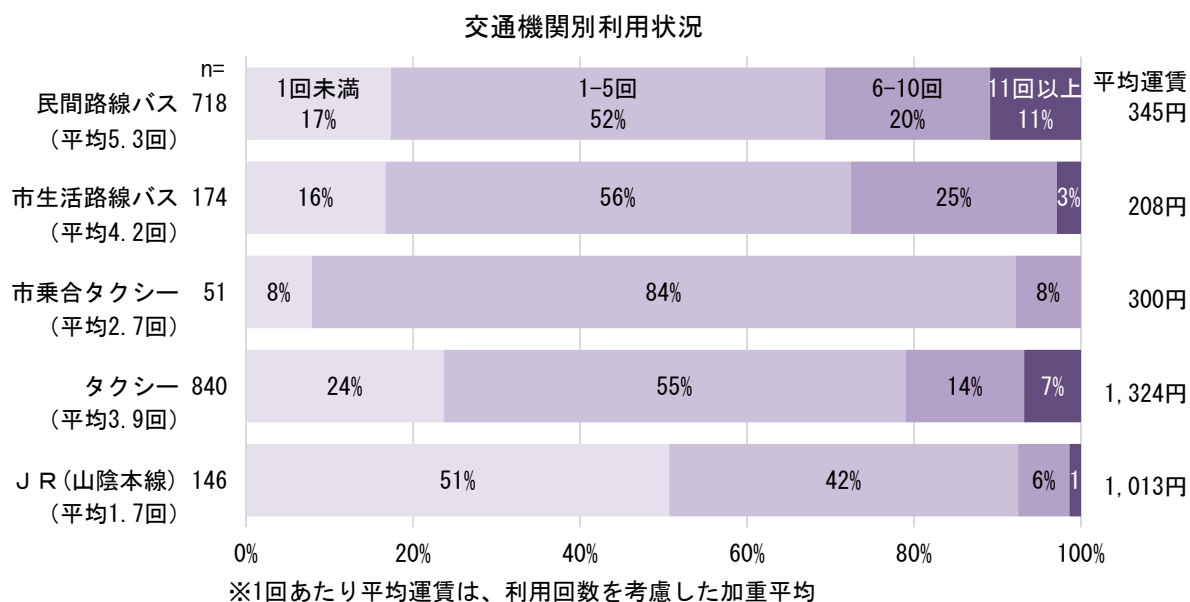
タクシー利用時の主要目的地（上位 5）

	浜田地区 (n=257)	石見地区 (n=260)	長浜地区 (n=81)	周布地区 (n=45)	美川地区 (n=34)
1	医療センター 21%	医療センター 15%	ゆめタウン 14%	浜田駅 16%	医療センター 9%
2	浜田駅 14%	浜田駅 13%	医療センター 12%	医療センター 11%	ゆめタウン 9%
3	ゆめタウン 9%	ゆめタウン 8%	浜田駅 9%	トライアル 11%	中村整形外科 9%
4	沖田医院 9%	沖田医院 7%	おさだ眼科 9%	都医院 9%	沖田医院 6%
5	おさだ眼科 5%	おさだ眼科 5%	トライアル 5%	三隅整形外科 7%	中村医院 6%
5			山根病院 5%		キヌヤ笠柄店 6%
	国府地区 (n=95)	金城自治区 (n=53)	旭自治区 (n=40)	弥栄自治区 (n=18)	三隅自治区 (n=60)
1	医療センター 28%	医療センター 23%	A コープあさひ 18%	弥栄診療所 33%	寺井医院 20%
2	やすぎクリニック 12%	沖田医院 9%	あさひ診療所 13%	杵束郵便局 11%	中村医院（三隅） 13%
3	浜田駅 8%	金城沖田医院 9%	旭インターチェンジ 13%	A コープやさか 11%	野上医院 10%
4	北村内科 6%	波佐診療所 9%	医療センター 13%		A コープみすみ 7%
5	沖田医院 4%	浜田駅 9%	浜田駅 10%		JA しまね三隅 7%
5	真鍋医院 4%				三隅三保駅 7%

※医療センター：浜田医療センター、ゆめタウン：ゆめタウン浜田、総合福祉センター：浜田市総合福祉センター

③交通機関別利用状況（1か月の平均利用回数と1回あたりの平均運賃）

- 1か月の平均利用回数は、JRを除いて各交通機関とも1～5回が過半数を占め、回答者1人あたりの平均利用回数は、民間路線バスが5.3回と最も多く、次いで市生活路線バス4.2回、タクシー3.9回と続いています。
- 1回あたりの平均運賃は、民間路線バスが345円、タクシー1,324円、JR1,013円となっています。



④敬老乗車券利用状況（1か月の平均利用回数と1回あたりの平均利用額）

- 1か月の平均利用回数は、民間路線バスが4.3回と最も多く、次いで市生活路線バス4.0回、市乗合タクシー2.5回、タクシー1.7回となっています。
- 1回あたりの敬老乗車券の平均利用額は、民間路線バスが261円、タクシーが987円となっています。

敬老乗車券利用状況			
	回 答 者 数	月 平 均 利 用 回 数	1 回 あ た り 平 均 利 用 額
民 間 路 線 バ ス	524	4.3 回	261 円
市 生 活 路 線 バ ス	150	4.0 回	206 円
市 乗 合 タ ク シ ー	45	2.5 回	300 円
タ ク シ ー	788	1.7 回	987 円

※1回あたり平均利用額は、利用回数を考慮した加重平均

敬老乗車券交付事業及び運転免許自主返納支援事業の申請状況等について

1 敬老乗車券交付事業

(1) 事業開始 平成 28 年 7 月 1 日 (金)

(2) 事業概要

市内に住所のある 70 歳以上の高齢者に対して市内の公共交通機関で利用できる 1 冊 3,000 円分の乗車券を 1,500 円で交付する。

※交付上限 10 冊 (30,000 円分)。

ただし、J R 浜田駅から半径 8 km を超える町の居住者は 12 冊 (36,000 円分)。

(3) 平成 30 年度申請状況 (平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日)

カッコ内：平成 29 年度からの増減

自治区	年度	申請者数 ①	交付冊数 ②	1 人当 交付冊数 (②/①)	対象者数 (③)	交付率 (②/③)
浜田	30 年度	2,309 人 (+19 人)	15,966 冊 (▲766 冊)	6.9 冊 (▲0.4 冊)	10,567 人 (+261 人)	21.9% (▲0.3%)
	29 年度	2,290 人	16,732 冊	7.3 冊	10,306 人	22.2%
	28 年度	2,635 人	17,362 冊	6.6 冊	9,967 人	26.4%
金城	30 年度	226 人 (+16 人)	1,879 冊 (+144 冊)	8.3 冊 (±0 冊)	1,240 人 (+21 人)	18.2% (+1.0%)
	29 年度	210 人	1,735 冊	8.3 冊	1,219 人	17.2%
	28 年度	271 人	2,002 冊	7.4 冊	1,194 人	22.7%
旭	30 年度	102 人 (▲35 人)	633 冊 (▲138 冊)	6.2 冊 (+0.6 冊)	899 人 (▲1 人)	11.3% (▲3.9%)
	29 年度	137 人	771 冊	5.6 冊	900 人	15.2%
	28 年度	120 人	605 冊	5.0 冊	912 人	13.2%
弥栄	30 年度	117 人 (▲21 人)	739 冊 (▲140 冊)	6.3 冊 (▲0.1 冊)	509 人 (▲5 人)	23.0% (▲3.7%)
	29 年度	138 人	879 冊	6.4 冊	514 人	26.8%
	28 年度	138 人	807 冊	5.8 冊	504 人	27.4%
三隅	30 年度	323 人 (▲22 人)	2,175 冊 (▲130 冊)	6.7 冊 (±0 冊)	1,985 人 (+21 人)	16.3% (▲1.3%)
	29 年度	345 人	2,305 冊	6.7 冊	1,964 人	17.6%
	28 年度	408 人	2,478 冊	6.1 冊	1,904 人	21.4%
合計	30 年度	3,077 人 (▲43 人)	21,392 冊 (▲1,030 冊)	7.0 冊 (▲0.2 冊)	15,200 人 (+297 人)	20.2% (▲0.7%)
	29 年度	3,120 人	22,422 冊	7.2 冊	14,903 人	20.9%
	28 年度	3,572 人	23,254 冊	6.5 冊	14,481 人	24.7%

※ 対象者数は、平成 30 年 4 月 1 日現在のものです。

(4) 乗車券の利用状況（平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日）

交通種別	利用額	割合
路線バス（民間路線バス、おおなんバス）	15,058,400 円	19.8%
タクシー（タクシー、福祉有償運送）	57,678,100 円	76.0%
市主管交通（市生活路線バス、市乗合タクシー）	3,016,600 円	4.0%
自治会輸送	184,500 円	0.2%
合 計	75,937,600 円	100.0%

※平成 30 年度予算額：81,029,000 円

2 運転免許自主返納支援事業

(1) 事業開始 平成 29 年 1 月 4 日（月）

(2) 事業概要

敬老乗車券交付対象者のうち、平成 28 年 7 月 1 日以降に全ての運転免許を自主返納した人に対して敬老乗車券 5 冊（15,000 円分）を無料で交付する。

※ 返納後 1 回限り

(3) 申請状況 平成 30 年度（平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日）

平成 29 年度（平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日）

平成 28 年度（平成 29 年 1 月 4 日～平成 29 年 3 月 31 日）

ア 自治区別

自治区 年度	浜田	金城	旭	弥栄	三隅	合計
30 年度	135 人	12 人	9 人	9 人	19 人	184 人
29 年度	195 人	17 人	23 人	11 人	27 人	273 人
28 年度	111 人	12 人	4 人	6 人	12 人	145 人

イ 年齢・性別

年代 性別	年度	70-74 歳	75-79 歳	80-84 歳	85-89 歳	90 歳-	合計
男性	30 年度	6 人	21 人	48 人	29 人	9 人	113 人
	29 年度	17 人	28 人	57 人	52 人	16 人	170 人
	28 年度	7 人	13 人	25 人	26 人	12 人	83 人
女性	30 年度	21 人	20 人	22 人	7 人	1 人	71 人
	29 年度	29 人	34 人	21 人	13 人	6 人	103 人
	28 年度	21 人	15 人	17 人	6 人	3 人	62 人
合計	30 年度	27 人	41 人	70 人	36 人	10 人	184 人
	29 年度	46 人	62 人	78 人	65 人	22 人	273 人
	28 年度	28 人	28 人	42 人	32 人	15 人	145 人

年代 性別	最年少	最年長	平均年齢
男性	69 歳	95 歳	82.8 歳
女性	69 歳	94 歳	78.5 歳
全体	69 歳	95 歳	81.1 歳

ウ 免許返納時期別

返納時期		人数	備考
平成 28 年度	7 月 1 日～12 月 12 日	51 人	事業公表前
	12 月 13 日～12 月 28 日	12 人	12 月 13 日～ 各メディアで報道
	1 月 4 日～3 月 31 日	103 人	申請受付開始
平成 29 年度	4 月 1 日～3 月 31 日	263 人	
平成 30 年度	4 月 1 日～3 月 31 日	173 人	
合 計		602 人	

自治会輸送の実績

1 羽原地区（平成 21 年 11 月～）

年度	運行日数	運行便数	利用者数
平成 28 年度	131 日	262 便	268 人
平成 29 年度	104 日	208 便	208 人
平成 30 年度	70 日	140 便	140 人

2 大麻地区（平成 29 年 7 月～）

年度	運行日数	運行便数	利用者数
平成 29 年度	36 日	140 便	440 人
平成 30 年度	48 日	252 便	800 人

3 井野地区（平成 30 年 4 月～）

年度	運行日数	運行便数	利用者数
平成 30 年度	150 日	336 便	532 人

【集計の考え方】

- ・片道を 1 便とし、片道利用を 1 名として集計。
（例えば、1 名の利用者を往復で輸送した場合、「2 便／2 名」で集計）
- ・大麻地区は、同日にお楽しみ会（高齢者サロン）便と買い物ツアー便があり、それぞれの片道を 1 便、1 名利用として集計。
（例えば、お楽しみ会便で 2 名が往復利用し、買い物ツアー便で 3 名が往復利用した場合、「4 便／10 名」で集計）

自治会輸送 事業計画書

地区名	羽原地区
当該地域の公共交通・生活状況の概要	浜田市井野町（羽原地区）は、3世帯、人口4人（うち高齢者3人）の中山間地域集落で、主要地方道浜田美都線と県道三隅井野長浜線に挟まれた谷間にあり、最も近い路線バス停留所まで2km以上、診療所や商店までは5km以上、総合病院までは10km以上それぞれ離れている。タクシーの営業所等は付近になく、地区中心地に通じる道路はバス路線となっていることから、高齢者等交通弱者の移動手段確保が必要である。
輸送活動の概要	(1) 輸送活動は、自治会員が運転手を務め、市から無償貸与を受けている車両を使用して行う。 (2) 輸送区域は、利用者自宅から浜田市中心部及び市内各地までとし、特定の路線は定めない。 (3) 輸送対象者は、当該自治会員及びその介助者とする。 (4) 運行日は、原則週4日以内とし、9：00～16：00の間とする。 (5) 予約は、前日までに事務局へ電話で行う。 (6) 運転手・事務スタッフは、自治会員7人体制で行う。

自治会輸送 事業計画書

地区名	大麻地区																
当該地域の公共交通・生活状況の概要	大麻地区は、西村町 1・2 町内と折居町内で構成する日本海に面した地域で、126 世帯、人口 201 人、高齢化率 55.2%（H31.3.1 現在）の地域である。 地区内を東西に国道 9 号と JR 山陰本線が通っているものの、居宅の多くは、国道から南側（山側）の斜面に点在しており、高齢者等の交通弱者にとっては、国道 9 号沿いの最寄りバス停や折居駅、大麻公民館等への移動が困難な状況である。 また、地区内にタクシー事業者はなく、市街地にある営業所からの回送距離が長いため、過去に利用を断られたケースもある。 平成 29 年 7 月から大麻地区まちづくり推進委員会が主体となり、大麻公民館で毎週開催する「お楽しみ会（高齢者サロン）」の送迎と買い物ツアーの輸送を行う「大麻コミュニティワゴン」の運行を開始した。（平成 30 年 4 月から西村 1 町内会が事業を継承）																
運送活動の概要	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">① 仕組み</td><td>住民が運転手を務め、市から無償貸与を受ける車両を使用し、地域住民の運送を行う。</td></tr> <tr> <td style="text-align: center;">② 運送区域</td><td>大麻地区内を基本とするが、商業施設が地区内に存在しないため、買い物ツアーは地区外へ運行する。（主に周布地区・三隅自治区）</td></tr> <tr> <td style="text-align: center;">③ 運送対象者</td><td>大麻地区に住所を有し、事前登録された者</td></tr> <tr> <td style="text-align: center;">④ 利用者負担</td><td>実費相当額として 100 円負担（往復）</td></tr> <tr> <td style="text-align: center;">⑤ 運行日</td><td>お楽しみ会送迎：毎週水曜日（午前） 買い物ツアー：毎週水曜日（午後） ※試行的に月 1 回、土曜日（午前）にも実施</td></tr> <tr> <td style="text-align: center;">⑥ 運行ダイヤ</td><td>お楽しみ会送迎：会の時間にあわせて運行 買い物ツアー：お楽しみ会の後に続けて実施 ※土曜日は概ね午前 10 時ごろ出発</td></tr> <tr> <td style="text-align: center;">⑦ 予約方法</td><td>予定運転手に直接連絡</td></tr> <tr> <td style="text-align: center;">⑧ 運転手</td><td>4 名</td></tr> </table>	① 仕組み	住民が運転手を務め、市から無償貸与を受ける車両を使用し、地域住民の運送を行う。	② 運送区域	大麻地区内を基本とするが、商業施設が地区内に存在しないため、買い物ツアーは地区外へ運行する。（主に周布地区・三隅自治区）	③ 運送対象者	大麻地区に住所を有し、事前登録された者	④ 利用者負担	実費相当額として 100 円負担（往復）	⑤ 運行日	お楽しみ会送迎：毎週水曜日（午前） 買い物ツアー：毎週水曜日（午後） ※試行的に月 1 回、土曜日（午前）にも実施	⑥ 運行ダイヤ	お楽しみ会送迎：会の時間にあわせて運行 買い物ツアー：お楽しみ会の後に続けて実施 ※土曜日は概ね午前 10 時ごろ出発	⑦ 予約方法	予定運転手に直接連絡	⑧ 運転手	4 名
① 仕組み	住民が運転手を務め、市から無償貸与を受ける車両を使用し、地域住民の運送を行う。																
② 運送区域	大麻地区内を基本とするが、商業施設が地区内に存在しないため、買い物ツアーは地区外へ運行する。（主に周布地区・三隅自治区）																
③ 運送対象者	大麻地区に住所を有し、事前登録された者																
④ 利用者負担	実費相当額として 100 円負担（往復）																
⑤ 運行日	お楽しみ会送迎：毎週水曜日（午前） 買い物ツアー：毎週水曜日（午後） ※試行的に月 1 回、土曜日（午前）にも実施																
⑥ 運行ダイヤ	お楽しみ会送迎：会の時間にあわせて運行 買い物ツアー：お楽しみ会の後に続けて実施 ※土曜日は概ね午前 10 時ごろ出発																
⑦ 予約方法	予定運転手に直接連絡																
⑧ 運転手	4 名																

自治会輸送 事業計画書

地区名	井野地区																			
当該地域の公共交通・生活状況の概要	井野地区は、三隅町井野・三隅町室谷・三隅町芦谷で構成する中山間地域で、342 世帯、人口 673 人、高齢化率 59.0%（H31.4.1 現在）の地域である。 浜田市生活路線バスが、比較的細かく路線を設定して運行しているものの、バス停から遠く離れた家も多く、利用者の中心である高齢者には、バス停までの移動が負担になっている。タクシーを利用するにしても、三隅中心地まで片道 2,000 円程度かかる上に、三保三隅駅で待機している車両に限りがあることから利用しにくい状況である。（※三隅自治区には、タクシーの営業所が存在しない。） また、浜田市生活路線バスは、運行している曜日が限定的であることから、バスを補完するドア・トゥ・ドア型の新たな交通手段が必要となっている。																			
運送活動の概要	<table><tr><td>① 仕組み</td><td>市から無償貸与を受ける車両 2 台及び住民所有の予備車 2 台を使用し、道路運送法に基づく「公共交通空白地有償運送」を行う。</td></tr><tr><td>② 運送区域</td><td>井野地区と三隅自治区の中心エリアを結ぶ運送</td></tr><tr><td>③ 運送対象者</td><td>井野地区に住所を有する者、その親族及び同伴者で事前登録された者</td></tr><tr><td>④ 利用者負担</td><td>片道 500 円</td></tr><tr><td>⑤ 運行日</td><td>平日</td></tr><tr><td>⑥ 運行ダイヤ</td><td>午前中に三隅行き 2 便・井野行き 3 便を設定</td></tr><tr><td>⑦ 予約方法</td><td>予約受付係（事務局）へ前日までに電話で予約</td></tr><tr><td>⑧ 運転手</td><td>20 名（第二種免許 1 名・講習受講者 19 名）</td></tr><tr><td>⑨ 事務局</td><td>女性グループ（ごっつおうの会）</td></tr></table> ※ 地区内輸送の開始を予定している。（6 月から）		① 仕組み	市から無償貸与を受ける車両 2 台及び住民所有の予備車 2 台を使用し、道路運送法に基づく「公共交通空白地有償運送」を行う。	② 運送区域	井野地区と三隅自治区の中心エリアを結ぶ運送	③ 運送対象者	井野地区に住所を有する者、その親族及び同伴者で事前登録された者	④ 利用者負担	片道 500 円	⑤ 運行日	平日	⑥ 運行ダイヤ	午前中に三隅行き 2 便・井野行き 3 便を設定	⑦ 予約方法	予約受付係（事務局）へ前日までに電話で予約	⑧ 運転手	20 名（第二種免許 1 名・講習受講者 19 名）	⑨ 事務局	女性グループ（ごっつおうの会）
① 仕組み	市から無償貸与を受ける車両 2 台及び住民所有の予備車 2 台を使用し、道路運送法に基づく「公共交通空白地有償運送」を行う。																			
② 運送区域	井野地区と三隅自治区の中心エリアを結ぶ運送																			
③ 運送対象者	井野地区に住所を有する者、その親族及び同伴者で事前登録された者																			
④ 利用者負担	片道 500 円																			
⑤ 運行日	平日																			
⑥ 運行ダイヤ	午前中に三隅行き 2 便・井野行き 3 便を設定																			
⑦ 予約方法	予約受付係（事務局）へ前日までに電話で予約																			
⑧ 運転手	20 名（第二種免許 1 名・講習受講者 19 名）																			
⑨ 事務局	女性グループ（ごっつおうの会）																			

中山間地域振興特別委員会
「2.交通・通信・情報の確保対策について」
(1) - ⑦ 資料

単位: 千円

	H29	H30	H31
交通対策事務費 (うち市費)	4,075千円 (3,985千円)	3,496千円 (3,406千円)	1,254千円 (1,164千円)
路線バス利用促進事業 (うち市費)	120,224千円 (107,653千円)	137,641千円 (126,800千円)	154,788千円 (145,371千円)
生活路線バス運行事業 (うち市費)	40,533千円 (31,072千円)	47,046千円 (38,708千円)	48,385千円 (40,318千円)
新交通システム運営事業 (うち市費)	23,137千円 (2,050千円)	15,338千円 (205千円)	15,294千円 (55千円)
地域公共交通再編事業 (うち市費)	68,868千円 (35,118千円)	86,012千円 (47,360千円)	
地域公共交通確保対策事業 (うち市費) ※旧地域公共交通再編事業			106,573千円 (106,573千円)
地域公共交通計画策定事業 (うち市費)		4,893千円 (4,893千円)	
合計 (うち市費)	256,837千円 (179,878千円)	294,426千円 (221,372千円)	326,294千円 (293,481千円)

中山間地域の抱える諸課題について 2「交通・通信・情報の確保対策」についての意見交換資料

(2) 幹線以外の枝線や私道の除雪・支障木撤去

	資料要望の内容	担当課	回答	備考
①	幹線と枝線の区別及び延長	維持管理課	(幹線市道の定義)：建設省（S55年）道路局道路課長通知より 1級市道の基準：地方生活圏の基幹的道路網を形成するために必要な道路。 2級市道の基準：国道、県道、1級市道を補完し、基幹道路網の形成に必要な道路。 ○除雪に係る道路種別、延長 【浜田】 幹線(1級市道・2級市道)1級市道-10路線、2級市道-16路線 44.2km 枝線(その他市道)その他市道-85路線 56.6km 農道-2路線 6.8km、林道-2路線 6.3km 【金城】幹線(1級市道・2級市道)1級市道-20路線、2級市道-26路線 111.5km 枝線(その他市道)その他市道-301路線 180.7km 農道-4路線 13.1km、林道-4路線 5.4km 【旭】幹線(1級市道・2級市道)17路線 28.7km、 枝線(その他市道)260路線 105.0km 歩道 5路線 1.9km、農道 4路線 7.0km 【弥栄】1級市道 3路線10.0km、2級市道 10路線23.4km、 支線 その他市道 250路線91.7km 農道 7路線15.3km、林道 2路線14.5km 【三隅】幹線(1級市道・2級市道)1級市道-7路線、2級市道-6路線 35.6km 枝線(その他市道)その他市道-39路線 61.5km 農道-12路線 22.4km、林道-6路線 6.7km	
②	担当別区間延長 (A社○○線△km)	維持管理課	別紙(2)－②のとおり	
③	除雪機械の市所有数と能力	維持管理課	浜田：該当なし 金城：9台 詳細は別紙(2)－③のとおり 旭：8台 詳細は別紙(2)－③のとおり 弥栄：15台 詳細は別紙(2)－③のとおり 三隅：該当なし	

中山間地域の抱える諸課題について 2「交通・通信・情報の確保対策」についての意見交換資料

(2) 幹線以外の枝線や私道の除雪・支障木撤去

	資料要望の内容	担当課	回答	備考
④	自治区別除雪に係る業者数と技能者数	維持管理課	【浜田】 H20年度：業者数 18社、技能者数（オペレーター）は不明、除雪車両数不明 H30年度：業者数 19社、技能者数（オペレーター）は不明、除雪車両数-40台 【金城】…自治区除雪機所有台数 9台 H20年度：業者数 10社、技能者数（オペレーター）57名 H30年度：業者数 11社、技能者数（オペレーター）94名 【旭】…自治区除雪機所有台数 8台 H20年度：業者数 5社、技能者数（オペレーター）18名 H30年度：業者数 7社、技能者数（オペレーター）23名 【弥栄】…自治区除雪機所有台数 15台 H20年度：業者数 8社（うち建設業者以外2社）、技能者数（21名） H30年度：業者数 8社（うち建設業者以外2社）、技能者数（21名） 【三隅】 H20年度：業者数 7社、技能者数（オペレーター）35名 H30年度：業者数 7社、技能者数（オペレーター）31名	

中山間地域の抱える諸課題について 2「交通・通信・情報の確保対策」についての意見交換資料

(2) 幹線以外の枝線や私道の除雪・支障木撤去

	資料要望の内容	担当課	回答	備考
⑤	自治区別除雪機の所有台数 通学路（歩道）及び 各戸進入路（枝線・私道） の除雪状況 例：自治会活動、高齢者活動、 有志活動などの対応例	維持管理課	自治区別除雪機の所有台数は、上記③のとおり 【浜田】 市所有機械はなく、地元除雪活動等該当なし 【金城】 通学路（歩道）の除雪については、島根県からの貸与機械により除雪作業を業者委託している。 雲城コミュニティ自治会においては、雲城地区除雪活動緊急援助隊により通学路の歩道除雪をボランティア活動として実施されている（市道及び県道の歩道）。 住家のある行き止まり市道については、除雪作業を行っている（市道部のみ）。 私道は、除雪を行っていない。 町内各自治会においては自治会所有の除雪機を活用し、個人所有地の除雪作業について依頼を受け実施されている。 【旭】 歩道が整備されている小中学校周辺の通学路は歩道用ロータリー除雪車（市有機）で除雪を実施している。 幅員があり、除雪作業の安全確保できる進入路（生活道路）は、除雪車で除雪している。 各自治会には自治会所有の歩道用除雪機があり、有償ボランティアなどで、個人の除雪依頼を受けている自治体もある。 【弥栄】 通学路については市所有歩道用機械(2台)により業者委託で対応 各戸進入路については市道部分までは市で業者委託により対応、私道部分については対応していない。 H21、22年度に各自治会に除雪機購入補助を行い25/29地区が小型除雪機を保有しており、それを活用して私道、集会所等の除雪を地元で実施されている。 【三隅】 市所有機械はなく、地元除雪活動等該当なし	

中山間地域の抱える諸課題について 2「交通・通信・情報の確保対策」についての意見交換資料

(2) 幹線以外の枝線や私道の除雪・支障木撤去

	資料要望の内容	担当課	回答	備考
⑥	幹線以外の枝線や私道の降雪時にどのくらい除雪要望があるのか	維持管理課	【浜田】 その他市道については、除雪計画により除雪作業を行い、私道は除雪対象外。 【金城】 住家の無い（農地等のみ）行き止まり市道について、雪の多いとき、1シーズン1～2件の要望がある。 【旭】 普段除雪してる路線以外で、除雪要望はほとんどない。 【弥栄】 幹線以外の枝線については、毎年、人家の空家状況に合わせて除雪計画を見直し。空家でも要望があれば対応を行う。（1～2件/年） 【三隅】 その他市道については、除雪計画により除雪作業を行い、私道は除雪対象外。	
⑦	私道除雪の依頼があるのか、またあれば過年度の依頼状況	維持管理課	【浜田】 私道は除雪対象外。 【金城】 私道の除雪は実施していない。 【旭】 普段除雪してる路線以外で、除雪要望はほとんどない。 【弥栄】 私道の依頼はなし（私道の除雪は実施しない） 【三隅】 私道は除雪対象外。	
⑧	支障木、危険木の進捗状況と今後の見込み	農林振興課	H28-H30の3年間での実績は、処理件数307件、事業費123,392千円、執行率96.8%。今年度においても、100%に近い執行が見込まれる。（支所によっては昨年からの積み残し等もある） 今後についても、地元要望が継続するものと推測でき、事業の継続が必要と考えている。	別添資料
⑨	私道の支障木の撤去依頼の実態があるのか、あれば過年度の依頼状況	農林振興課	本事業においては、市が管理する市道・農道・林道を対象に位置付け、事業展開をしており、私道の撤去依頼は受け付けておらず、個人での対応をお願いしています。（件数等の把握はしておりません。）	

中山間地域の抱える諸課題について 2「交通・通信・情報の確保対策」についての意見交換資料

(3) 携帯電話・ラジオの不感地域解消

	資料要望の内容	担当課	回答	備考
①	現在分かっている電波別不感地域	政策企画課	(別紙のとおり)	
②	携帯電話・NHK・FM放送の不感地帯（地域）の現状	政策企画課	(別紙のとおり)	
③	不感地帯の判断基準と自治区毎の状況	政策企画課	(別紙のとおり)	
④	携帯電話不感地域の地域は	政策企画課	(別紙のとおり)	
⑤	公共放送ラジオの不感地域は	政策企画課	(別紙のとおり)	
⑥	テレビ・ラジオの不感地域とその世帯数	政策企画課	(別紙のとおり)	
⑦	携帯電話の残りの不感地域の箇所数は	政策企画課	(別紙のとおり)	
⑧	ラジオの不感地域解消の取り組みの実態、及び不感地域箇所数の把握は？	政策企画課	(別紙のとおり)	
⑨	携帯電話不感地域の地区名	政策企画課	(別紙のとおり)	
⑩	携帯電話、AMラジオ、FMラジオの電波不感地区の実態と対応計画	政策企画課	(別紙のとおり)	
⑪	自治区及び地域別の戸別受信機・発信設備の現状	防災安全課	(別紙のとおり)	

中山間地域の抱える諸課題について 2「交通・通信・情報の確保対策」についての意見交換資料

(3) 携帯電話・ラジオの不感地域解消

	資料要望の内容	担当課	回答	備考
⑫	戸別受信機の価格、発信設備の価格および維持費・更新期間	防災安全課	(別紙のとおり)	
⑬	通信環境整備とその活用（事業予算とその事業評価）	政策企画課	- 平成14年～平成21年度 市内全域にケーブルテレビ網を整備 総事業費 5,387,768千円（三隅CATV事業含む） - 平成30年度 避難所を中心に市内35ヵ所に公衆無線LANを整備 総事業費 17,064千円 - 令和元年～2年度 ケーブルテレビ中継局舎設備増設 総事業費 44,656千円（予定） ケーブルテレビについては、中山間部の難視聴対策のために地上デジタルテレビ放送の再送信を行うとともに、行政情報、防災情報等を発信しており、地域にとって重要な役割を担っている。	
⑭	シェアリングエコノミーについて（データのシェアなども含む） ＊推進しているのであればシンボルの事業と課題	政策企画課	現在、シェアリングエコノミーを推進するなど、具体的な取組はしておりません。	
⑮	テクノロジーの活用について ＊推進しているのであればシンボルの事業と課題	政策企画課	現在、市が推進している中山間向けの先進的なテクノロジーを活用した事業はありません。	
⑯	防災行政無線の受信可不地域（屋外拡声器のないところ）、戸別受信機の設置状況	防災安全課	(別紙のとおり)	
⑰	防災メールの登録者の目標数と現登録者数	防災安全課	(別紙のとおり)	
⑱	防災防犯メールの自治区別の登録者数	防災安全課	(別紙のとおり)	
⑲	現在の4自治区の防災行政無線及び戸別受信機がデジタル化になった場合にかかる費用	防災安全課	(別紙のとおり)	
⑳	ポケベル周波数帯の活用の計画があるか	防災安全課	現在のところ、計画はありません。	

中山間地域の抱える諸課題について 2「交通・通信・情報の確保対策」についての意見交換資料

(3) 携帯電話・ラジオの不感地域解消

	資料要望の内容	担当課	回答	備考
㉑	情報へのアクセス（地域情報、防災情報、テクノロジー情報など）	政策企画課 防災安全課	地域情報：市及び関連団体HP・SNS、広報紙、CATV、防災行政無線等 防災情報：防災行政無線、防災防犯メール、ツイッター、ケーブルTV、NHKデータ放送 テクノロジー情報：提供なし	
㉒	CATVの受信環境のない地域とその世帯数	政策企画課	- 旭エリア 旭町丸原（刑務官宿舎） - 浜田エリア 天満町（清水町との隣接：約3世帯） 大金町（波子敬川との隣接：約3世帯） 下府町（物流団地内すべて） ※ 消防桜ヶ丘出張所までは整備 宇野町（佐野町寄り：約3世帯） 三階町（5町内：6世帯） 国分町（サンビレッジ浜田周辺：約4世帯） 周布町（周布保育園周辺：約10世帯）	
㉓	次世代モビリティサービスの導入が施策にあげられているが、中山間地域で実施するためには、通信・情報網の整備も一体的に考える必要があると考える。現在、具体的な実証実験の受入れの計画などがあるのか。	まちづくり推進課 政策企画課	現在のところ、具体的な実証実験の受入れの計画はありませんが、地域公共交通確保維持改善事業補助金（新モビリティサービス推進事業）の活用などを視野に入れ、検討してまいります。	

市内の電波別不感地域について

1 市内不感地域

電波	不感地域	備考
携帯電話	三隅町河内鹿子谷 5 世帯 (平成 31 年 2 月末現在)	
地上デジタル テレビ放送	なし	・旧浜田市内は共同アンテナ、 CATV 放送により視聴対応 ・自治区は CATV 放送により視聴対応
AM、FM ラジオ	不明、未調査	

2 不感の判断、対応計画

(1) 携帯電話

〔不感の判断〕 大手キャリア 3 社（NTT ドコモ、KDDI（au）、ソフトバンク）の携帯電話サービスにおいて、携帯端末の電波状況が屋外で「圏外」の地域。

〔対応計画〕 平成 27 年度に、大手キャリア 3 社に対し、不感地域への基地局設置の要望を行った。現在、当時の不感地域 8 地域のうち、7 地域が解消されている。

(2) 地上デジタルテレビ放送

〔不感の判断〕 山間地・丘陵・窪地等の地理的要因により地上デジタルテレビ放送の受信が良好でない地域で、建築物等の受信障害物により受信障害が発生し、地上デジタルテレビ放送の受信が良好でない地域以外のもの。（難視聴地域）

〔対応計画〕 全地域視聴可能のため計画無し。

(3) AM、FM ラジオ放送

〔不感の判断〕 明確な定義なし。
アナログ波のため、昼夜、外国放送波、受信機器等の影響により受信状況が大きく変化する。

〔対応計画〕 平成 29 年度に、NHK 放送局とラジオ不感地区解消についての協議を実施。今後も、引き続き協議を行っていく。

防災行政無線、戸別受信機について (3)-⑪～⑲

1、発信設備(3)-⑪ 本庁、各支所及び消防本部

2、戸別受信機の設置数等(3)-⑪

自治区	屋外子局設置数	戸別受信機設置数	備考
浜田	51	244	防災ラジオ約 400 台
金城	7	1,544	
旭	10	1,317	
弥栄	29	740	
三隅	18	2,217	
計	115	6,062	

3、整備費用等(3)-⑫、⑰

戸別受信機 1 台 5 万円から 12 万円程度

戸別受信機の維持管理費 年間約 10,000 千円程度

デジタル化への検討

改修費用の試算 19 億円（戸別受信機の購入含む）

3、整備区域(3)-⑭

別紙図面のとおり

防災防犯メールについて

1、登録者数等(3)-⑮、⑯

登録者数 8,737 件（H31.3 月）

目標数 10,000 件（H33 年度＝R3 年度）

自治区	発信希望件数	備考
浜田	7,064	登録者数と合致しないのは、複数地区を希望するため
金城	1,524	
旭	1,242	
弥栄	1,200	
三隅	1,860	

情報のアクセスについて

1、防災情報の発信媒体(3)-⑲

防災行政無線、防災防犯メール、ツイッター、ケーブルTV、NHKデータ放送

浜田市管内図

1:120,000



【浜田自治区】
屋外子局: 51局(H30)
個別受信機: 244台(S60)

【同報系】浜田市防災行政無線 位置図

【旭自治区】
屋外子局: 10局(H11)
個別受信機: 1,317台(H25)

【金城自治区】
屋外子局: 6局(H14)
個別受信機: 1,544台(H14)

【三隅自治区】
屋外子局: 17局(H30)
個別受信機: 2,217台(H25)

【弥栄自治区】
屋外子局: 29局(H18)
個別受信機: 740台(H18)

【凡例】

- 既設デジタル
- 既設アナログ
- ★ 無線中継局

中山間地域の抱える諸課題について 2「交通・通信・情報の確保対策」についての意見交換資料

(4) 除雪等を担う建設事業所の減少・縮小

	資料要望の内容	担当課	回答	備考
①	建設事業所数の推移	維持管理課	除雪を担う業者数の10年前との比較 【浜田】 H20年度：業者数 18社、技能者数（オペレーター）は不明、除雪車両数不明 H30年度：業者数 19社、技能者数（オペレーター）は不明、除雪車両数-40台 【金城】 H20年度：業者数 10社、技能者数（オペレーター）57名 H30年度：業者数 11社、技能者数（オペレーター）94名 【旭】 H20年度：業者数 5社、技能者数（オペレーター）18名 H30年度：業者数 7社、技能者数（オペレーター）23名 【弥栄】 H20年度：業者数 8社（うち建設業者以外2社）、技能者数（21名） H30年度：業者数 8社（うち建設業者以外2社）、技能者数（21名） 【三隅】 H20年度：業者数 7社、技能者数（オペレーター）35名 H30年度：業者数 7社、技能者数（オペレーター）31名 ※詳細は別紙（2）-④のとおり	H20年度とH30年度の比較
②	除雪等を担う建設事業所の数とオペレーターの人数	維持管理課	①と同じ	
③	除雪を担う事業所の過年度の実態	維持管理課	別紙（4）-③のとおり	
④	事業所に変わる作業者の体制の状況	維持管理課	【浜田】 該当なし 【金城】 現在のところ無し 【旭】 該当なし 【弥栄】 弥栄自治区では建設業者に加え、農事組合法人、認定農業者（株式会社）の2団体と委託契約をおこなっている。現在は全体の約20%を委託して除雪している。 【三隅】 山間部の迅速な除雪実施を目的に平成22～23年度に営農企業体の『(有)三隅町農業支援センターみらい』が除雪を実施。（平成24年度以降は役務登録をしていないため契約は行っていない）。	企業体など
⑤	建設事業所の売上高の推移	維持管理課	別紙（4）-⑤のとおり	過去5年の件数、金額
⑥	中小事業者への発注金額の推移	維持管理課	中小企業への発注は⑤に同じ。	

中山間地域の抱える諸課題について 2「交通・通信・情報の確保対策」についての意見交換資料

(4) 除雪等を担う建設事業所の減少・縮小

	資料要望の内容	担当課	回答	備考
⑦	工事の季節別発注状況	維持管理課	別紙 (4) - ⑦のとおり	H30年度 4月～6月 7月～9月 10月～12月 1月～3月

中山間地域の抱える諸課題について 2「交通・通信・情報の確保対策」についての意見交換資料

(5) 公共交通を直接担う運転手の減少

	資料要望の内容	担当課	回答	備考
①	J R ・ 石見交通の路線数及び範囲の推移	まちづくり推進課	別添資料あり	
②	自家用車保有数の推移	まちづくり推進課	別添資料あり	
③	公共交通を直接担う運転手の減少の実態は？また運転手の年齢の把握状況	まちづくり推進課	毎年の定年者数より入社者数が少ないため、運転者数は減少しているとのことです。 年齢については別紙参照	
④	シルバー世代の雇用が進んでいると思うが実態は？	まちづくり推進課	シルバー世代の雇用が増えているというより、若い世代が入社しないため平均年齢が上がっているという現状とのことです。	

中山間地域振興特別委員会
「2.交通・通信・情報の確保対策について」
(5)－① 資料

	H29	H30	H31
路線数	12	12	12
系統数	47	47	54

中山間地域振興特別委員会
「2.交通・通信・情報の確保対策について」
(5) － ② 資料

自家用車保有数の推移

	H28	H29	H30	H31
軽自動車	22,300	22,375	22,411	22,470
普通車	15,750	15,717	15,634	15,541
合計	38,050	38,092	38,045	38,011

【石見交通㈱】（益田・浜田・大田営業所全体）平均年齢 55.4 歳
30～34 歳 6 人、35～39 歳 6 人、40～44 歳 10 人、45～49 歳 25 人、
50～54 歳 21 人、55～59 歳 20 人、60～64 歳 25 人、65～69 歳 34 人 計 147 人

【タクシー事業者】

県内（島根県旅客自動車協会確認（運転者証交付者数より算出））
全体 1,362 人 平均年齢 61.7 歳 最年少 22 歳 最年長 84 歳

中山間地域の抱える諸課題について 2「交通・通信・情報の確保対策」についての意見交換資料

(6) 狭隘道路の多さ、車の回転場の必要性

	資料要望の内容	担当課	回答	備考
①	市道に占める狭隘道路率（狭隘道路とは？）	維持管理課	狭隘市道とは、道幅が狭いため離合が困難である道路や、行止り道で、方向転換ができないなど通行に支障をきたす道路。 狭隘率につきましては、未改良市道では、道路幅は一定ではなく、離合困難な場所もあれば、可能な場所も様々あり、狭隘率を出すのは困難です。	
②	回転場とは？	維持管理課	幅員の狭い行止り道路の終点が民家の庭先までで、方向転換が困難な場合に方向転換できるよう設置する拡幅部分。	
③	狭隘道路で救急不能の箇所数と車の回転場を必要とする箇所数の把握は？	維持管理課	救急不能箇所とは、緊急車両が通行困難な場所ということで、消防では平成22、23年に全市の緊急車両通行困難箇所を調査され、全体で約300か所の通行困難箇所の情報提供があった。 道路管理者として、平成22年度から30年度にかけて、待避所・回転場等の整備を進めてきた。地元要望も含め、9年間で150か所の回転場・待避所等を整備済。 ただ、この消防の情報はあくまで、消防の緊急活動の際の通行・進入注意的な所内の確認・周知が目的であるとのことでもあり、全ての箇所の整備は困難。 最近は工事箇所のほとんどが、地元要望に対して回転場等を整備しているのが実態であり必要とする箇所数の正確な把握は難しいのが現状である。	
④	上記の住民の家族状況と世襲状況の把握を問う	維持管理課	一般的に、家人の構成等の把握は可能と思われる。	

中山間地域の抱える諸課題について 2「交通・通信・情報の確保対策」についての意見交換資料

(7) 高校への通学手段

	資料要望の内容	担当課	回答	備考
①	島根県西部における広域送迎の実情	まちづくり推進課	広域送迎のある県西部の高校は以下のとおりです。 ・島根県立島根中央高等学校 ・島根県立矢上高等学校 ・島根県立吉賀高等学校 ・私立石見智翠館高等学校 ・私立明成高等学校 ・私立益田東高等学校	
②	公共交通を利用しての通学者数及び割合	まちづくり推進課	別添資料あり	
③	高校への通学手段の自治区ごとの実態は？	まちづくり推進課	自治区ごとのデータは各校とも公表しておられません。	

浜田市内県立高等学校における通学状況調査について

高校名	手段	学生数	割合
浜田高校 (令和元年度)	徒歩	176	29.6%
	自転車	129	21.7%
	バス	17	2.9%
	JR	196	32.9%
	その他自家用車等	77	12.9%
	計	595	100.0%
浜田商業 (令和元年度)	徒歩	38	17.8%
	自転車	35	16.4%
	バス	16	7.5%
	JR	75	35.2%
	その他自家用車等	49	23.0%
	計	213	100.0%
浜田水産 (平成30年度)	徒歩	10	7.9%
	自転車	71	55.9%
	バス	6	4.7%
	JR	13	10.2%
	自家用車	27	21.3%
	計	127	100.0%

全校合計	徒歩	224	24.0%
	自転車	235	25.1%
	バス	39	4.2%
	JR	284	30.4%
	自家用車	153	16.4%
	計	935	100.0%

中山間地域振興特別委員会 視察先の情報

前回委員会での状況：岡山県高梁市のポケベル電波を使った情報提供

H29.4 導入 約 1500 台を購入し約 1500 世帯に無償貸与

(島根県中山間地域研究センター地域研究科より)

- 1 買い物・通院手段の確保（だんだん車が運転できなくなる）
- 2 幹線以外の枝線や私道の除雪・支障木撤去
- 3 携帯電話・ラジオの不感地域解消
- 4 除雪等を担う建設事業所の減少・縮小
- 5 公共交通を直接担う運転手の減少
- 6 狭隘道路の多さ、車の回転場の必要性
- 7 高校への通学手段

＞ 中国・四国エリアにおけるお薦めの自治体の情報提供をお願いいたします。

(回答)

こちらでの支援や研究対象が地域住民を主体とした活動で、かつ領域としては上記 1～7 の中で、1 と 4 に限られますが、こちらで持っている情報についてご提供させていただきます。ホームページでも確認して頂けるとよろこびます。

1 買い物・通院手段の確保（だんだん車が運転できなくなる）

(1) 山口県山口市阿東町地福 NPO 法人ほほえみの郷トイトイ

地域スーパー経営、交流スペース運営、移動販売車運営、地域支援コンシェルジュサービス

(2) 山口県山口市長門市 NPO 法人ゆうゆうグリーン俵山

交通空白地有償運送、デイサービス、教育旅行などを複合展開

(3) 高知県梺原（ゆすはら）町 NPO 法人絆

梺原町内の初瀬・松原地区で交通空白地有償運送を展開、弁当配達も行う。

梺原町は、島根県での小さな拠点に該当する、集落活動センターが複数設立されており、その他視察コンテンツは豊富にあると思います

(4) 雲南市波多コミュニティ協議会

住民組織による地域内交通「たすけ愛号」事業、交流センター内への小型スーパー「はたマーケット」の内設、ご用聞き配達など様々な取組を展開しています。ご存じかと思いますが雲南市についても同上です。

4 除雪等を担う建設事業所の減少・縮小

(1) 雲南市の地域自主組織による除雪活動

※建設事業者の撤退は背景としていませんが、除雪活動は盛んです。